

2019年度卒業生の DP達成度の状況 (2019年度卒業時調査結果)

分析対象者：2019年度卒業生 105名
卒業時調査回答率81.0% (85名/105名)

目次

1. 2019年度卒業生のDP達成度自己評価 . . . p.1
2. 5学年～卒業時までのDP達成度比較 p.2
3. 2019年度卒業時調査と卒業後調査の比較 . . p.3-4

医学教育センター IRレポート No.42

作成日：2020年 9月 15日

担当：医学教育センターIR部門

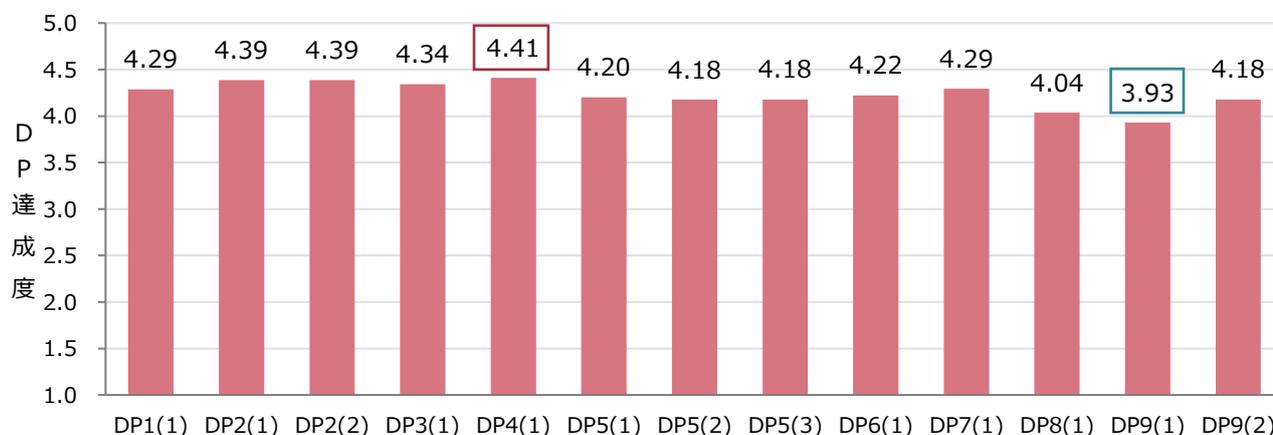
2019年度卒業生のDP達成度自己評価

関西医科大学ディプロマポリシー（小項目）

No.	DP項目内容
DP1(1)	慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として豊かな人間性を身につける。
DP2(1)	医師としての職責を自覚し、倫理観・使命感・責任感を涵養し、省察的態度をもって行動ができる。
DP2(2)	法令や社会的規範を遵守し、責任ある社会人として行動ができる。
DP3(1)	コミュニケーション能力を持ち、患者・家族・同僚と良好な人間関係を築くことができる。
DP4(1)	共感的姿勢を持ち、患者の立場になって行動する態度を身につける。
DP5(1)	国際的・社会的に貢献できる幅広い教養、特定分野にとらわれない医学的知識を修得する。
DP5(2)	根拠に基づいた医療を基盤とする臨床推論を実践できる。
DP5(3)	良質で安全な医療に立脚した基本的診療能力・技能を修得する。
DP6(1)	科学的な観察力・思考力・表現力を身につけ、自ら問題を解決することができる。
DP7(1)	自己主導型学習を実践し、向上心を持ち生涯にわたり学習を継続する姿勢を身につける。
DP8(1)	リーダーシップを発揮し、多職種連携による医療・研究を実践できる。
DP9(1)	国際的視野を持ち、医療人として国際社会に貢献できる。
DP9(2)	地域における保健・医療・福祉を理解し、医療人として地域社会に貢献できる。

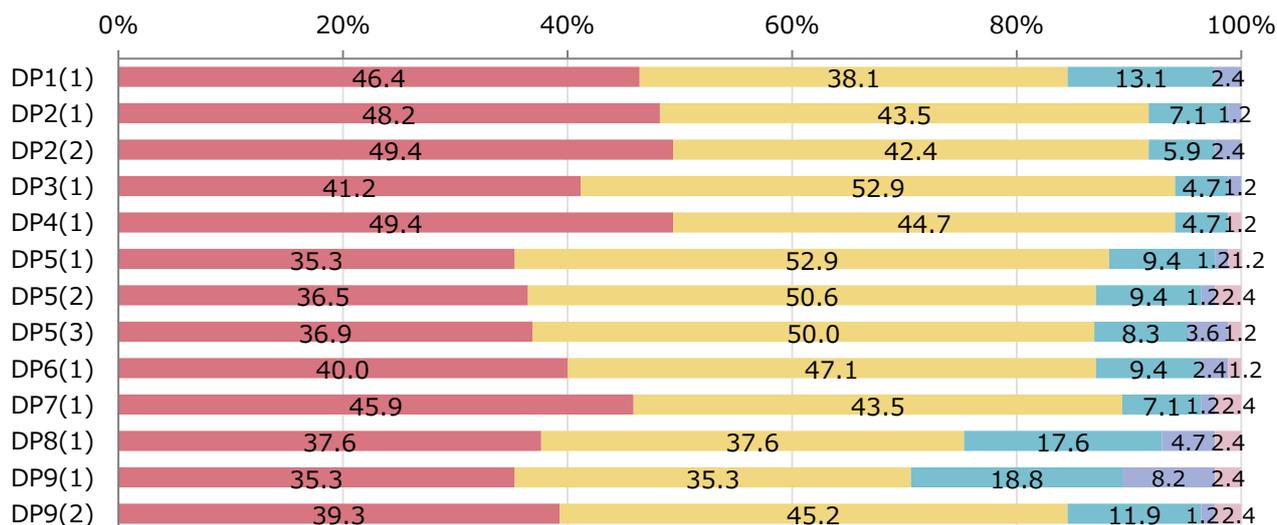
2019年度卒業生のDP達成度自己評価（平均値）

※各到達目標について、1（到達できていない）～5（十分到達できた）で達成状況を自己評価。



2019年度卒業生のDP達成度自己評価（回答内訳）

■ 十分到達できた ■ ある程度到達できた ■ どちらともいえない ■ あまり到達できていない ■ 到達できていない



5学年～卒業時までのDP達成度比較

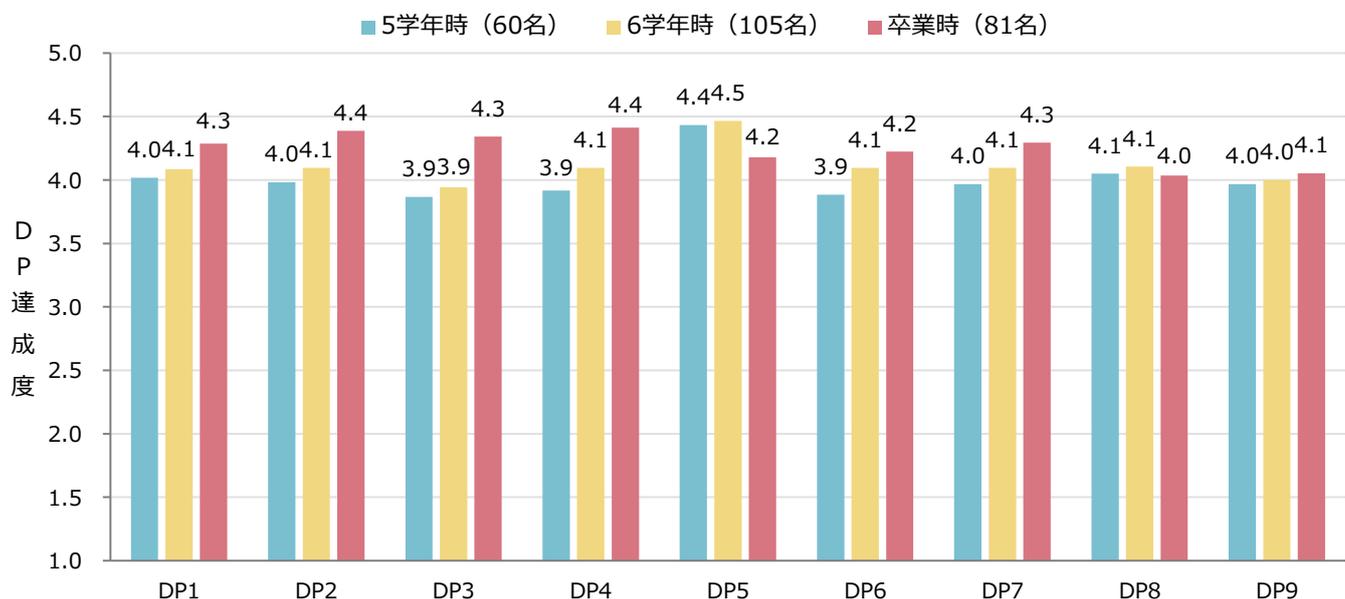
関西医科大学ディプロマポリシー（大項目）

No.	DP項目内容
DP1	医療人としての人間性
DP2	プロフェッショナリズム・倫理観
DP3	コミュニケーション能力
DP4	患者中心・共感の姿勢
DP5	医学的知識・技能
DP6	科学的思考・問題解決能力
DP7	自己主導型学習・生涯学習
DP8	多職種連携
DP9	国際的視野・地域医療

2018年度（5学年）および2019年度（6学年）学修実態調査との比較。調査はそれぞれ2018年7～10月、2019年10～11月実施。2019年度卒業生のうち、回答率は2018年度調査は57.1%、2019年度調査は100%。
学修実態調査では大項目で調査を行っているため、卒業時調査で複数の小項目があるDP2、DP5、DP9については平均値を算出し、それを各DPの自己評価の値とした。

5学年、6学年、卒業時のDP達成度自己評価

※5～6学年の学修実態調査では、大学入学時と比べてDP1～9がどの程度変化したかを、1（大きく減った）～5（大きく増えた）で自己評価。卒業時調査とは質問項目や回答選択肢が異なるため、単純比較はできないことに注意。



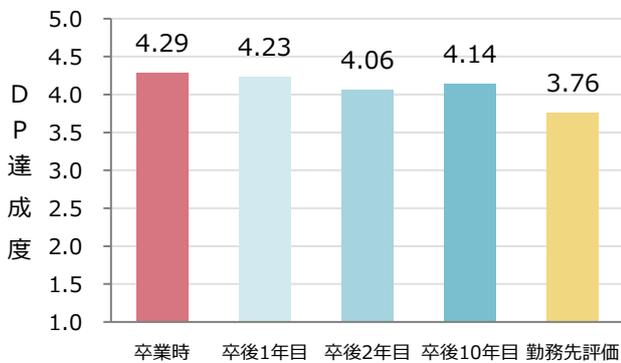
まとめ

- **達成度が高い項目**：DP4（患者中心・共感の姿勢）、DP2（プロフェッショナリズム・倫理観）
- **達成度が低い項目**：DP9(1)（国際的視野・国際貢献）、DP8（リーダーシップ・多職種連携）。これらの項目は5学年からの上昇もほとんど見られない。
- **その他**：DP5（医学的知識・技能）は卒業時に低下しているが、これは調査方法の違いが原因と考えられる。また、DP5(1)（国際的・社会的に貢献できる幅広い教養）が卒後1～10年目にかけて自己評価が低いこと（次頁参照）と関連している可能性がある。

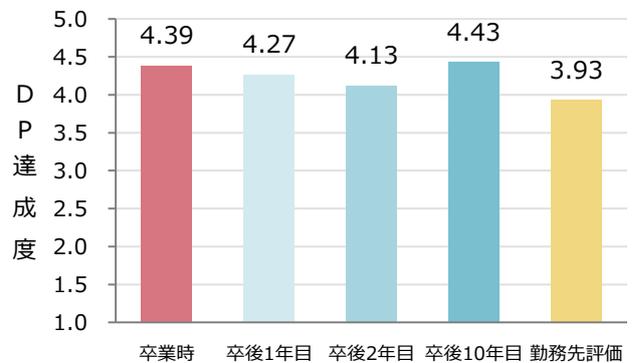
2019年度卒業時調査と卒業後調査の比較

※卒業後調査では各DP項目に対して、1（該当しない）～5（とても該当する）で自己評価。勤務先評価も同様。卒業時調査とは回答選択肢が異なるため、単純比較はできないことに注意。

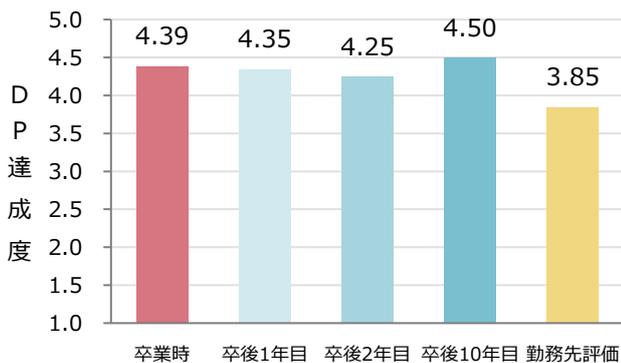
DP1(1) 慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として豊かな人間性を身につける。



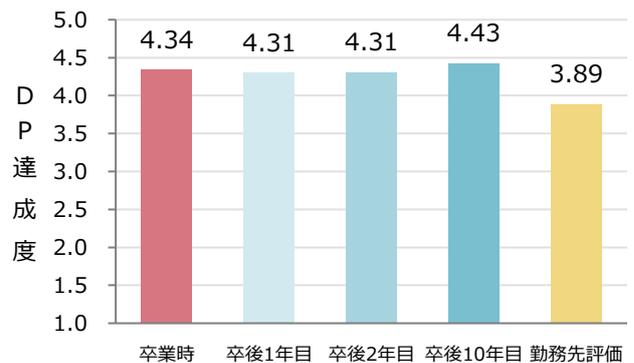
DP2(1) 医師としての職責を自覚し、倫理観・使命感・責任感を涵養し、省察的態度をもって行動ができる。



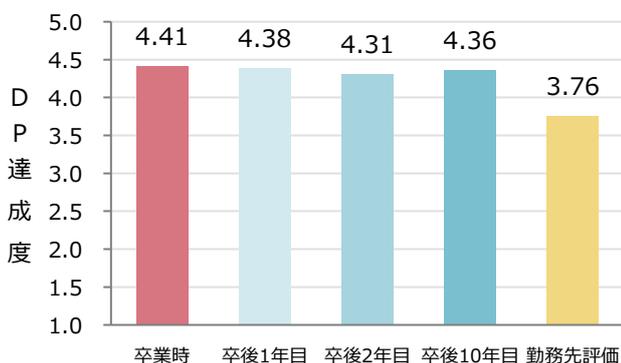
DP2(2) 法令や社会的規範を遵守し、責任ある社会人として行動ができる。



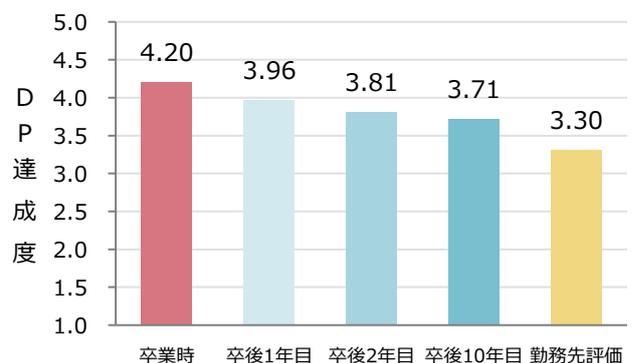
DP3(1) コミュニケーション能力を持ち、患者・家族・同僚と良好な人間関係を築くことができる。



DP4(1) 共感的姿勢を持ち、患者の立場になって行動する態度を身につける。



DP5(1) 国際的・社会的に貢献できる幅広い教養、特定分野にとらわれない医学的知識を修得する。



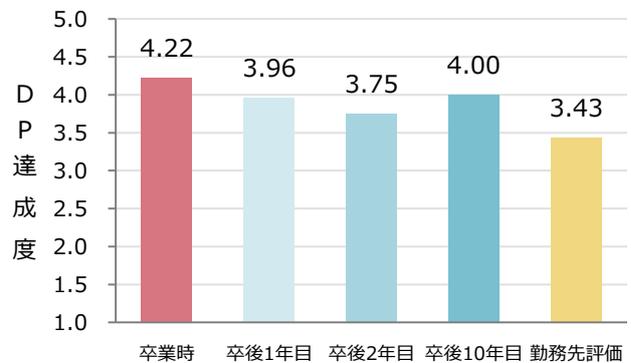
2019年度卒業時調査と卒業後調査の比較

※卒業後調査では各DP項目に対して、1（該当しない）～5（とても該当する）で自己評価。勤務先評価も同様。卒業時調査とは回答選択肢が異なるため、単純比較はできないことに注意。

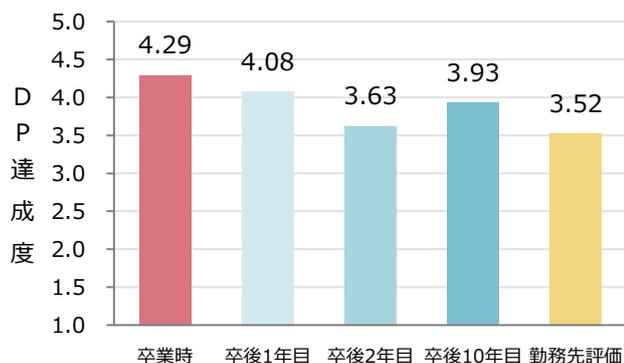
DP5(2) 根拠に基づいた医療を基盤とする臨床推論を実践できる。



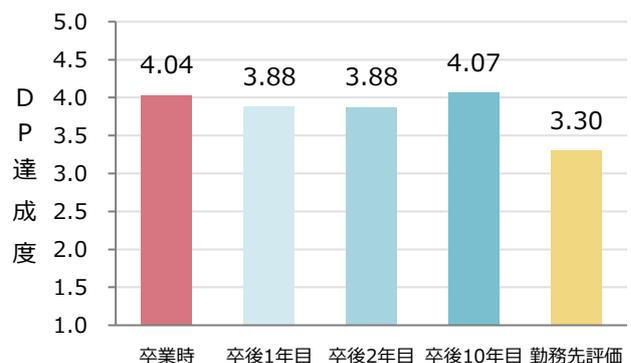
DP6(1) 科学的な観察力・思考力・表現力を身につけ、自ら問題を解決することができる。



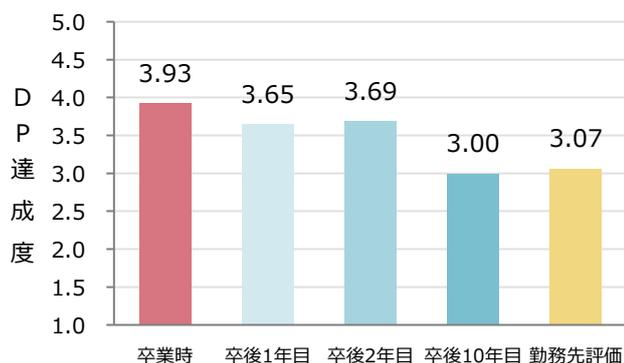
DP7(1) 自己主導型学習を実践し、向上心を持ち生涯にわたり学習を継続する姿勢を身につける。



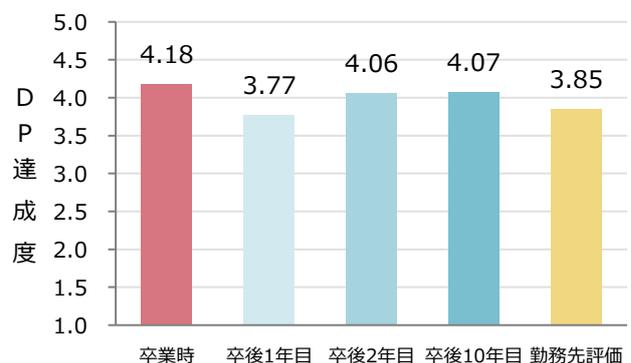
DP8(1) リーダーシップを発揮し、多職種連携による医療・研究を実践できる。



DP9(1) 国際的視野を持ち、医療人として国際社会に貢献できる。



DP9(2) 地域における保健・医療・福祉を理解し、医療人として地域社会に貢献できる。



IRレポート

01. 学生の国試合否状況および学業成績
02. 2017年度 学生の学修時間・学修行動実態調査の分析
03. 学生の国試合否状況および学業成績ver.2
04. 最終総合成績に対する各卒業試験の比重の検討
05. Gritと学生の学業成績、進級状況、学修行動
06. 特別枠・各地域枠学生の学業成績推移
07. 各科目成績と国試および各種試験との相関関係
08. 平成25～30年度6学年生の国試合否状況と試験成績推移
09. 平成29年度1学年の各科目成績評価（GP）の状況
10. 平成29年度CBT確認テストの成績分布
11. 平成25～30年度6学年生の国試合否状況と試験成績推移ver.2
12. 平成25～30年度6学年生の国試合否状況と試験成績推移ver.3
13. 2018年度 学生の学修時間・学習行動実態調査の結果
14. 平成25～30年度6学年生の国試合否状況と試験成績推移ver.4
15. 2018年度学修時間・学修行動実態調査 ― 予習・復習時間の分析
16. 2012～2017年度特別枠入試入学生の学業成績の状況
17. 2018年度 6学年生の国試合否状況および学業成績
18. 2018年度 1学年 生体の構造と機能A1 中間試験成績
19. 2014-2019年度 6学年生の学業成績比較
20. 2018年度PCC-OSCEと国試合否および学業成績
21. 2017・2018年度 1学年生の科目成績と授業満足度の比較
22. 2017・2018年度 科目成績と授業満足度の比較
23. 2019年度 夏メック模試と国試合否予測
24. 入試区分および入試面接成績と入学後成績・出席率・卒業状況
25. 2019年度 卒試①～③成績からの国試合否予測
26. 2019年度 卒試①～④成績からの国試合否予測
27. 2017～2019年度CBT本試成績
28. 入試集団面接成績と入学後成績・6年卒業状況
29. 一般入試小論文成績と入学後成績・6年卒業状況
30. 本学卒業生のDP達成度の状況（卒業後アンケートおよび卒業生勤務先アンケート結果）
31. 2011～2013年度入学生の卒業後進路
32. シミュレーションセンター利用状況とOSCE成績
33. 2019年度 6学年生の国試合否状況と学業成績
34. CBT合格基準IRTスコアの設定
35. センター試験利用入試および地域枠入学者の入学後成績
36. 2018・2019年度 看護学部入学者の入学後成績
37. 2020年度進級ガイダンスアンケート集計結果
38. 2017-2019年度 特プロ学生の成績推移
39. 2019年度 学修時間・学修行動実態調査の結果
40. 2018-2019年度 新カリキュラム各科目成績評価（GP）の状況
41. 2011-2019年度 推薦入試小論文成績と入学後成績（席次）の関係
- 42. 2019年度卒業生のDP達成度の状況（本資料）**

医学教育センター IRレポート No.42

作成日：2020年 9月 15日

担当：医学教育センターIR部門



関西医科大学

KANSAI MEDICAL UNIVERSITY

医学教育センター

CENTER FOR MEDICAL EDUCATION